

41. 最近10年間の当院における腹部外傷

坂口文秋, 大久保恵司, 野村庸一
齊藤登喜男, 近藤良晴(県立東金)

50年4月より60年11月の間に35例の腹部外傷手術を施行。交通事故26例中運転手7例。同乗者4例は重症で2例死亡。バイク7例は腎損傷多し。自転車1例, 歩行者4例, 労働災害3例, 転落2例。喧嘩2例中1例と自殺2例は刺創。死亡4例。受傷より開腹まで平均14.5時間。開腹の遅れた7例の内訳は, 症状発現遅延2例, 一時軽快1例, 刺創を念の為1例, 他医経由3例。Negative laparotomy 5例中刺創2例を含む3例は開腹の必要がなかった。

42. 日本住血吸虫症を合併した原発性十二指腸癌の1治験例

島田英昭, 相馬光弘, 岡田 正
今園 修, 剣持 敬(県立佐原)

症例, 67歳女性。主訴, 食思不振・上腹部痛。上部消化管造影と内視鏡にて, 十二指腸に腫瘤をみとめ, 生検で腺癌の診断だった。昭和60年9月3日, Child 変法にて臍頭十二指腸切除術を施行した。手術所見(P₀H₀S₁)切除標本では, 十二指腸I部からII部にかけて, 3.0×5.5cmのBormann 2型様腫瘍があり, 乳頭部は健常だった。組織学的には, 中分化型管状腺癌であり, 粘膜下に日本住血吸虫卵が, 混在した。

43. 腹腔内出血にて緊急手術に至った巨大な小腸平滑筋肉腫の1例

高石 聡, 吉川広和, 齊藤弘司(幸手総合)

69歳男性。狭心症様発作にて入院。腹痛, 腹部膨満, 腹部腫瘤触知, 貧血高度。超音波検査および腹腔穿刺にて腹腔内腫瘍からの出血を考え緊急手術施行。Treitzより25cmに14×12×8cmの管外発育性の腫瘍を認め, 空腸約9cmとともに摘出。病理学的に低悪性度の平滑筋肉腫の所見。術後2カ月経過良好。

最近6年間の小腸平滑筋肉腫報告例を集計し, 若干の考察を加えた。

44. 褐色細胞腫の1例

朝長 毅, 西島 浩, 大川昌権
織田成人 (千葉社保)

症例は35歳男性。主訴なし。高血圧, 側腹部痛, 後頭

部痛の既往あり, 当院ドックのエコーにて腹部腫瘤指摘され, CT, Angio で後腹膜腫瘍と診断し開腹。術中異常な高血圧と不整脈出現し, 褐色細胞腫と診断した。術後判明した, 術前の尿中, 血中アドレナリンは高値で, ノルアドレナリン, 尿中VMAは正常であった。腫瘍は左副腎原発で, 8×8×7.5cm, 235gであった。術後, 脚水腫, 低血圧を合併したが, 2週間で軽快退院した。

45. 残胃癌の検討

古市庄二郎, 高村良平, 花岡明宏
石川邦文

(栃木県厚生連石橋病院外科)

症例1. 54歳男性。33年前十二指腸潰瘍で胃切除術(B-II)施行。主訴貧血。吻合部にBorrmann II型の癌を認め, 残胃全摘, 臍脾横行結腸合併切除。低分化型腺癌, Stage IVで5カ月後再発死亡。症例2. 65歳男性。10年前胃潰瘍で胃切除術(B-I)施行。主訴貧血。噴門部にBorrmann III型の癌を認め, 下部食道残胃全摘, 臍脾肝外側区域合併切除, 肺部分切除。未分化癌, Stage IVで, 術後3カ月生存。若干の文献的考察を加え報告した。

46. 大量下血を来し緊急手術を要した潰瘍性大腸炎の1例

松原久裕, 小沢弘祐, 鈴木昭一
飯野正敏 (沼津市立)

症例は37歳男性。昭和60年6月より水様性下痢出現。同年7月末より下腹部痛, 発熱を認め8月7日入院。潰瘍性大腸炎の診断にて保存療法施行するも1日4000ml以上の大量下血を来し, 8月28日結腸全摘, 直腸上部部分切除, 回腸直腸吻合術を緊急に施行した。術後輸血後肝炎を呈した他は排便機能も良好であり残存直腸に再燃を認めない。大量下血にて緊急手術を施行した潰瘍性大腸炎の一例を若干の文献的考察を加え報告した。

47. 盲腸に原発した悪性リンパ腫の1例

吉田正美, 三好弘文, 角田洋三
竹内英世, 荻野幸伸, 丹羽有一
(熊谷総合)

患者は73歳の男性で, 主訴は下腹部痛と食欲不振, 注腸検査では, 盲腸に中心部陥凹した辺縁明瞭な隆起性病変を認め, 内視鏡検査では, 白苔の付着した潰瘍を伴った腫瘍であった。回盲部悪性腫瘍の診断のもとに, 右半